

Mushihimesama Futari
Visual Selection



今とは違う時間軸。
恐獣が栄える辺境の地に、ニンゲンの里がありました。
気位の高い女王ラーサが治める、うたかたの里。
人々は恐獣と共存し、小国ながらも平和な生活を送っていました。

あるとき、里は甲獣の襲撃を受けました。
この地域では見慣れない昆虫種です。
甲獣は、その大きな身体で人々の住家を潰し、
ニンゲンに有害なレヴィセンスを羽から振りまき、
里をめちゃくちゃにしました。

国を守るために立ち上がったのは、ラーサの第一王子・アキ。
アキは恐獣を従え、甲獣相手に戦いを挑みました。
戦いは長期化しました。
一体退けても、すぐにまた別の甲獣が襲ってくるからです。
次から次へと現れる甲獣……。
その原因を突き止めるため、アキは一人、
甲獣たちの神が棲むと言われるシンジュが森へと旅立ったのです。

アキが国を空けてしばらくして、甲獣の攻撃はやみました。
けれど、アキは戻ってきません。

女王ラーサは、愛する息子の帰りを待ちました。
気が遠くなるほど長い月日を待ちました。
数多い王子の中でも、勇敢で聡明なアキは女王にとって特別でした。
自分の跡を継ぐのはアキしかいない。
アキはきっと帰ってくる。
全てが解決しアキが国へ戻ったら、王位を継承させようと心に決めていました。

しかし、シンジュが森の捜索隊からもたらされたのは非情な報告でした。
アキはホシフリの里の娘レコによって殺されたというではありませんか。

「よくも、私の大事なアキを殺したわね！ぬう、小娘めっ、絶対許さない！」

女王はすぐにシンジュが森への出兵を考えました。
シンジュが森は甲獣の支配する森。
森は危険なレヴィセンスで満たされており、
真っ向から戦いを挑んでも勝ち目がありません。
女王は悶えました。

「ここは単純なパルムを行かせて……クッククッ」

捨て駒として挙げられたのは、まだ幼さの残る八番目の王子パルム。
パルムは純粋で素直で母親を慕っていましたが、
女王にとってアキ以外は大勢の息子の中の一人ではなかった。

「心優しいお前の兄は、シンジュが森に棲む醜い女に残酷非道な手口で殺された」

女王はパルムをあおり、告げました。

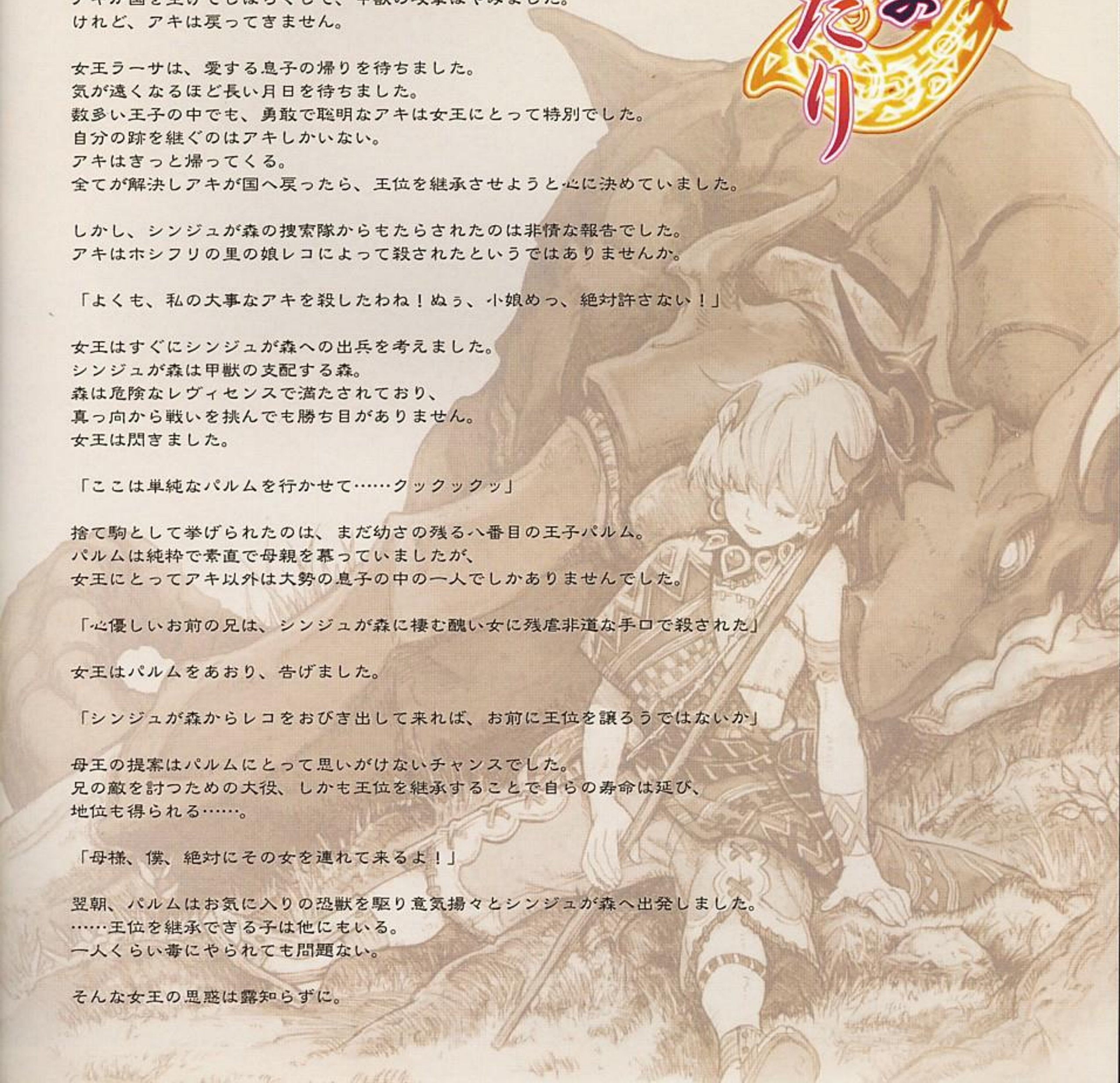
「シンジュが森からレコをおびき出して来れば、お前に王位を譲ろうではないか」

母王の提案はパルムにとって思いがけないチャンスでした。
兄の敵を討つための大役、しかも王位を継承することで自らの寿命は延び、
地位も得られる……。

「母様、僕、絶対にその女を連れて来るよ！」

翌朝、パルムはお気に入りの恐獣を駆り意気揚々とシンジュが森へ出発しました。
……王位を継承できる子は他にもいる。
一人くらい毒にやられても問題ない。

そんな女王の思惑は露知らずに。















レコ

シンジュが森の維持神さま。
 友達のカブト種の甲獣キンイロに乗る。
 彼女の使うサクレツの実は浄化作用が付いて
 パワーアップしている。
 年齢不詳 人間年齢15歳

『困っている子がいるのに黙ってられないよお』





パルム

森の神だったアキの弟で、
うたかたの神殿の女王ラーサの子供。
レコに会う為ドラゴン種の恐獣
ハイローに乗ってやってきた。
9歳

『分からないよ母様、本当に
レコちゃんがアキ兄様を殺したの？』



キンイロ

カブト種の甲獣。
神様の力で3本角になったレコの友達。
お供に小さな甲獣カブトを従えている。
同種の甲獣クロガネとは仲が悪い。





ハイロー

小さな頃からパルムを知っている
恐獣でドラゴン種。
パルムの杖から力をもらうと、
敵を蹴散らす火球を吐くことが出来る。
小さい頃は体の色が灰色だったため
この名前になった。

パルムいわく
『だって色が変わるなんて
思わなかったんだもん』



ラーサ

うたかたの神殿の女王でパルムの母親。
息子のアキがレコに殺されたと思い込み怒りに燃えている。
たくさんの恐獣を力で束縛し神殿を守らせている。

『オーッホッホッホッ、殺しなさい、殺しなさい、
レコを殺しなさい！』





ホシフリの里の娘レコは森の神アキを倒し、
シンジュが森の維持神となり後を継いでいました。
キンイロの傷もこの地で暮らすうちに癒え、レコも心を取り戻しましたが、
ここ最近何か胸騒ぎがするようです。
そんな中、レコはいつものようにシンジュが森を散歩中に一人の少年に出会いました。
そこには少年が大きな動物を連れて倒れていたのです。

「ねえ、大丈夫」少年の顔を覗き込むレコ。

目を覚まし、少年もレコの顔を見つめました。

「ここは…何処？」少年はレコに問いかけました。

「ここはね、シンジュが森って言うの、でもニンゲンはいれないはずなんだけどなあ」
「わたしはレコ、この森を守護する神さまなんだよ」

レコがそう言うと少年は驚き、堰を切ったように話し始めました。
水晶の海の奥にあるという【うたかたの里】に行かねばならない。
そこが少年の故郷で甲獣に襲われて大変な事になっていると……。
そう言い放った少年の名前はパルム。

パルム 「君が本当に神様ならその企みを止めることができるはずなんだ」

レコ 「それってわたしに協力して欲しいってこと？」

パルムはコクンと頷く。

レコ 「う〜ん困ったなあ、この森を留守にしたら迷惑がかかりそうだし…
困っている人を見過ごす訳にもいかないしな…」

レコは悩んだ末に決断しました。

「よしっ！決めたっ、わたしの力が役立つのなら協力するよ。
アキだって許してくれるよね、きっと」

レコ 「ところで後ろの大きな子は？」

パルム 「ああ、僕の友達の恐獣ハイローだよ、僕をここまで運んでくれたんだ」

レコ 「そうなんだ、よろしくね！ハイロー」

パルム 「じゃあ行ってくれるんだね、その、かっ、かみ…」

レコ 「レコでいいよ！パルムっ」

パルム 「えっ、えっと、じゃあレコちゃん、エヘ」

こうしてレコとパルムはシンジュが森を後にし、旅に出るのです。
しかし神様不在のシンジュが森が、
この後大変なことになるのを今のレコには知る術もなかったのです。





Reco Ver.

パルムの後を追って森を抜けたらね、
見慣れない甲獣たちがい～っぱいの、何故？
どうして島が浮いてるの？
森の外って広いんだな、レコ、とっても感動したよお。
うわっ！ 裂って来たあ。やっぱりまた戦わないといけないのね。

Palm Ver.

レコちゃん、じゃなかった。レコをうまく連れ出せた。
本当にこの女がアキ兄さまを殺したの？
とてもそうは思えないんだ。
僕は騙されているのかな？ この女の罠なのかな？
でもね、何かとっても優しい感じがするんだ …母様よりも…



Reco Ver.

冷たくってまん丸で不思議なの、これが雪なんだね。
はじめて見たけど、海ってこんなに広いのね。
敵もまた襲ってくるけど耐えなくっちゃ。
だって、私がパルムの故郷を救ってあげないといけないんだから。

Palm Ver.

危ないところをレコに助けられた。
パルム大丈夫？って気づかってくれて…。
ああ～もう、僕何だか分かんなくなってきた。
海は大荒れで大吹雪、こんな事今までなかったのに。
母様に会わせるまで負けられないっ ハイロー行くよっ！



Reco Ver.

パルムはアキに似ているね。
私、そのアキとね、戦わなくちゃなくなっちゃって……。
200年の風習、避けられなかったの、アキの望みだったの。
とても悲しかったんだけど、泣いていられないって
アキに代わって森を護っていかないと決めたんだ。
この甲獣たち…留守にしたからバチが当たったのかな？
でもパルムも守ってあげたいって思ったんだ。

Palm Ver.

レコちゃんだけでなく、甲獣達までこっちに来てしまった。
僕、この女の罠にはまったの？
え！？涙…レコちゃん…泣いてるの？
もしかして僕がレコちゃんを連れ出したせいで森の呪縛が解けて…。
母様、僕分かったよ、レコちゃんは悪くない。
僕は母様の罠にはまったんだ。



Reco Ver.

みんな、もう止めてえ！無駄な殺し合いなんてしたくないのにつ！
前にホシフリの里の長老が教えてくれた
数百年前に君臨した漆黒の甲獣王ってクロガネの事？
まさかっ子孫なの？
でもね、私だって神様なんだからっ！許さないんだから。

Palm Ver.

レコちゃんは教えてくれた。アキ兄さまを殺してしまったと…。
200年の風習、避けられなかったのだと。
僕は何故かレコちゃんを責める事が出来なかった。
レコちゃんが見えない暖かいものに守られている。
それがアキ兄さまのような気がしたから。



Reco Ver.

パルムが泣きながら教えてくれた、パルムはアキの弟だった。悲しいけど私騙されていたのね。でも私はパルムを責められない。パルムのお母さんだっけきっといい人よ。アキの事とっても好きだったのね。パルムっ、ちょっと怖いけど私、お母さんに会ってみる。

Palm Ver.

あっ！甲獣の死骸…神殿にも攻めて来てた！？ここで戦ったらみんな死んじゃうのに！みんなは母様に騙されているんだっ！レコちゃんは悪くないんだ。これだけ言っても分からないのっ。僕を信じてよお、もう誰も殺したくないのにっ。アキ兄さま、僕に力を貸してっ。

Reco Ver.





Palm Ver.



© 2006 CAVE CO., LTD.

虫姫さまふたりは、(株)ケイブの登録商標です。本書の内容を無断で複写・複製することは法律で禁止されています。